

シルバー新報

発行所：環境新聞社 東京都新宿区四谷3-1-3(第一富澤ビル) 電話 03(3359)5371
大阪市中央区久太郎町3-1-15 電話 06(6252)5895

2018年(平成30年)

2月2日
(金曜日)

介護の文化を創る専門紙
年間購読料 21,000円(税別)

報酬改定を読む(在宅編) ……2~5面
東京都、介護人材確保対策に重点 ……6面
「サ高住の補助は改修に重点化」 ……7面
地域のサ責が訪問介護ルール化へ ……8面

介護報酬改定が決定

多職種連携「加算」で促す

2018年度介護報酬改定が、1月26日に開かれた介護給付費分科会で決定した。プラス0.54%の改定率で、一部を除き基本報酬は微増。大幅ダウンも懸念されていた生活援助だが、45分以上が2単位減にとどまった。自立支援・重度化防止や中重度者対応のために、多職種連携を促す加算が量産されたのが特徴だ。経験と勘に基づく介護から根拠に基づく介護への転換が否応なく求められることになりそうだ。(2~5面に関連記事)

根拠に基づく介護へ転換迫る

改定率については、今回は施設、在宅での配分は示していない。基本報酬が大きく減算になったのは、通所介護の大規模型だ。「7~9時間未満」を新しい区分となる「7~8時間」に減らすと規模により4~5%の報酬減となる。地域密着通所の短時間もマイナス。訪問介護の生活「従来型」の2類型だったのが、「在宅強化型」に入った。「在宅強化型」は、介護療養病棟と同水準の医療により充実した療養環境を実現できる、つまり高水準。転換の手間賃として、「移行定着支援加算」93単位/日も新設され、特別待遇だ。届出した日から1年間算定できる。1人分約34万円の計算。医療療養病棟をどこまで押し出してくるか、診療報酬の水準が目指される。「制度が複雑化し、利用者からの料金体系の把握が難しくなっている。簡素化し、自己決定できる制度にすべき」と同日、大西秀人高松市長が発言した。今回も加算が乱造された。最も力が入っているのは訪問リハ、通所リハでの医師の

関与と多職種協働を促す「リハビリテーションマネジメント加算」だ。I、IIの2区分だったのを4区分に細分化し、取りやすくすることにも、報酬額も引き上げた。リハ職との連携は、厚労省が考える最も有効な自立支援・重度化予防対策だ。訪問介護だけだった「生活機能向上連携加算」が今回の改定では、全ての福祉系サービスで算定できるようになった。報酬で加算をもらい、リハ職の派遣先に支払う。費用は個別契約だ。連携先は拡大したが、地域医療を担う病院や診療所、老健、訪問看護ステーションのリハ職は認めない。どこまで算定が進むか創設される。

多職種連携を促す今回のダブル改定は、「経験と勘」から、根拠にもとづく介護への転換を迫るものとも言えそうだ。福祉用具レンタルに上限額が導入されるのに伴い、上限額を定める告示が創設される。

多職種連携を促す今回のダブル改定は、「経験と勘」から、根拠にもとづく介護への転換を迫るものとも言えそうだ。福祉用具レンタルに上限額が導入されるのに伴い、上限額を定める告示が創設される。

同日、大西秀人高松市長が発言した。今回も加算が乱造された。最も力が入っているのは訪問リハ、通所リハでの医師の関与と多職種協働を促す「リハビリテーションマネジメント加算」だ。I、IIの2区分だったのを4区分に細分化し、取りやすくすることにも、報酬額も引き上げた。リハ職との連携は、厚労省が考える最も有効な自立支援・重度化予防対策だ。訪問介護だけだった「生活機能向上連携加算」が今回の改定では、全ての福祉系サービスで算定できるようになった。報酬で加算をもらい、リハ職の派遣先に支払う。費用は個別契約だ。連携先は拡大したが、地域医療を担う病院や診療所、老健、訪問看護ステーションのリハ職は認めない。どこまで算定が進むか創設される。

拡充・新設された主な加算

- 生活機能向上連携加算 I 100単位/月 II 200単位/月
※訪問介護、定期巡回、小多機(介護予防含む)
- 生活機能向上連携加算 200単位/月
通所介護(地域密着含む)、認知症通所(予防含む)、短期入所介護(予防含む)、特定施設・地域密着型特定施設(予防含む)、認知症GH(予防含む)、特養・地域密着型特養
- 栄養スクリーニング加算 5単位/回(6カ月に1回)
通所介護(地域密着含む)、療養通所、認知通所(予防含む)、通所リハ(予防含む)、小多機能(予防含む)、看多機、特定施設(予防含む)、認知症GH(予防含む)
- リハビリテーションマネジメント加算(通所リハ)
230~1020単位/月(6カ月以内)
→330~1220単位/月(6カ月以内)
- ADL維持等加算(I) 3単位/月 (II) 6単位/月
通所介護、地域密着型通所介護
- 褥瘡マネジメント加算 10単位/月(3カ月に1回)
特養・地域密着型特養、老健
- 排せつ支援加算 100単位/月
介護保険施設
- 移行定着支援加算 93単位/日
老健、介護療養型、介護医療院
- 身体拘束未実施減算
5単位/日減算→10%/日減算
介護保険施設、居住系サービス
- 若年認知症利用者受入加算 800単位/月
小多機(予防含む)、看多機、特定施設・地域密着型特定施設(予防含む)

遊歩道

▽都市部の高いコストを介護報酬改定に反映させようという活動してきた東京都高齢者福祉施設協議会だが、今回も届かなかった▽人件費以外の物価を報酬に反映するには、制度の抜本的な見直しが必要になる。最後にのぞみをかけていたのは人件費率の見直しだ。現在、特養ホームの地域加算は、最も低い人件費率45%に位置づけられている。前回の改定では、ショートステイの人件費率が見直され55%の計算となったため、期待もあった▽人件費率をどう計算しているか厚労省は公表しておらず、報酬改定のブラックボックスの一つだ。報酬決定時に結論がでるので反論のしようもない▽今回は、プラス改定だったこともあり、見える部分ではあまり変わらないと考える人は少なくないかもしれない▽しかし、見えない部分を解いていくと、2040年に向けて大きく舵を切ったと言えないかと思う。

PanaHome

2018年度 **医療・介護W改定対策セミナー**開催

お申し込みはお早めに!

主催：日本医療企画
共催：パナホーム・パナソニック

病院・診療所
介護事業所関係の方
予約制・参加無料
各定員30~60名先着順
お早めに申し込みください

日時	宇都宮会場 2/3(土) 14:00~17:00	東京会場 2/10(土) 14:00~16:30	高崎会場 2/17(土) 14:00~17:00	広島会場 2/17(土) 13:30~17:00
演者	金丸 隆文	長面川 さより	金丸 隆文	山下 友利
会場	パナホーム北関東 パナホームプラザ	新宿NSビル	高崎市総合福祉センター	メルパルク広島
定員	30名	60名	40名	50名
日時	長野会場 2/18(日) 13:30~17:00	名古屋会場 3/3(土) 14:00~17:00	静岡会場 3/10(土) 13:30~17:00	
演者	今瀬 俊彦	今瀬 俊彦	金丸 隆文	
会場	メルパルク長野	名駅ミッドランドスクエア	静岡駅ビル「パルシェ」	
定員	50名	50名	40名	

※詳細はホームページで確認下さい。

講演 同時改定の重要ポイント解説
病床再編時代を先取りする事業戦略とは?

在宅移行で医療・介護事業所の進むべき道を考える 今瀬 俊彦 氏
(株)今瀬ヘルスケアコンサルティング所長

事例紹介 パナホームによる最新成功事例とご提案

**施工事例紹介、ケアリンクシステムの紹介
人材確保、介護報酬の改定対策の提案** 演者：パナホーム(株) 特建事業部

商品紹介 パナソニック エアコンみまもりサービスのご紹介

IoTの活用による職員の負担軽減と施設の付加価値アップにつながるご提案 演者：パナソニック(株) ビジネスインノベーション本部

セミナー詳細・お申込みは
右のホームページかQRコードからお気軽に!

パナホーム 医療介護 イベント 検索

www.panahome.jp/mw/